●ER(IHC),PgR(IHC),HER2(IHC)の提出方法

1）材料は乳癌、胃癌（HER2のみ）の原発巣または転移巣の組織が検討対象となります。（切除標本および生検標本）
2）10%中性緩衝ホルマリンで6時間以上72時間以内固定したものが望ましいとされています。
下記の条件では適正な結果が得られない場合がありますので避けて下さい。
① アセトン系やアルコール系固定液を使用した検体。
② 摘出臓器をホルマリン固定してから固定時間が72時間を越える検体。
③ 固定後長期間経過した検体。（過去の検体等）

※ER(IHC),PgR(IHC),HER2(IHC)依頼のみの場合は下記の点にもご注意下さい。
（弊社で通常の病理検査を実施していない場合）
1）病理依頼書と病理診断書のコピーを添付しご提出下さい。
2）ホルマリン固定パラフィン包埋組織から未染薄切切片を作製し、シランなどのコーティーングスライドにのせたものとなります。
組織をER(IHC),PgR(IHC)は2μm、HER2(IHC)は4μmの厚さに薄切し、なるべくスライド中央に貼りつけ40℃で一晩乾燥させ、速やかにご提出下さい。（高温での短時間乾燥は60℃で30分以内の処理に留め、長時間高温に置くことは避けて下さい。）
未染標本は各々3枚ご提出下さい。（薄切から6週間以内）
3）パラフィンブロックでのご提出も受託致します。

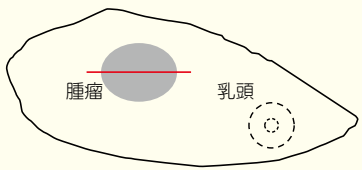
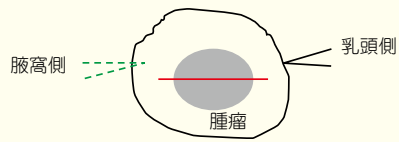
項目コード	項目名
41049	ER(IHC)
41050	PgR(IHC)
41051	乳癌 HER2 タンパク（IHC）
41068	胃癌 HER2 タンパク（IHC） ※病理依頼書の追加項目に項目番号を記入してご提出下さい。

●乳腺切除材料 ER,PgR,HER2の検索について

乳腺は脂肪が多い為、固定不十分になることがあり、判定に苦慮する場合があります。以下のような方法で固定しご提出下さい。
固定時間は6時間以上72時間以内が望ましく、固定時間が長すぎると抗原性低下による偽陰性が生じることがあります。切除後できるだけ速やかにご提出下さい。

固定方法

1）切除材料
①皮膚を下にして板に貼り付ける。（板の上にはガーゼを敷いておく）
②脂肪織側から腫瘤に割を入れ、裂け目に薄くガーゼを挿入する。
③固定液に入れる。（組織の10～20倍量の10%中性緩衝ホルマリン）



2）縮小手術材料
①乳頭側、腋窩側が分かるようにマーク（糸）をつける。
②皮膚を下にして板に貼り付ける。（板の上にはガーゼを敷いておく）
③脂肪が多い時は脂肪織側から腫瘤に割を入れ、裂け目に薄くガーゼを挿入する。脂肪が少ない時は割を入れなくても大丈夫です。
④固定液に入れる。（組織の10～20倍量の10%中性緩衝ホルマリン）